

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	安全	29年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長
施策名	港の安全性・信頼性の向上	成果	コスト			
事務事業名	大江ふ頭耐震強化岸壁改良事業	継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921 工事課、港湾工事事務所、海務課
目的	対象(誰・何を)	大江ふ頭耐震強化岸壁(38号岸壁)			事業 期間	平成26~令和元 年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	老朽化対策を実施し、施設の長寿命化を図ることで、耐震強化岸壁としての機能を発揮させます。				
概要	整備場所:名古屋港区大江町 内容・規模:鉄道車両やボーイングの部品などの輸送機械を主とする重量物を扱う岸壁であり、震災時の緊急物資輸送や震災後の復旧期間における貨物輸送を確保します。老朽化した鋼管矢板の補修や地盤改良等を施工します。耐震強化岸壁185m 全体工事費:38億円(平成26年度に19億円から変更) 事業手法:予防保全事業				根拠 法令等	社会資本整備重点 計画法 名古屋港湾湾計画
事業着手時点の 評価	耐震強化岸壁としての機能が発揮され、震災時の緊急物資輸送や震災後の復旧期間における貨物輸送が確保されます。また、施設の長寿命化、維持管理費の縮減が図られます。				実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
30年度の実施予定	老朽化対策のため、岸壁改良(陸側の地盤改良、新設控え鋼管杭打設、既設鋼管矢板補修)を行います。				関連 シート	

2 DO(実施)

30年度に実施した 内容・結果	老朽化対策のため、岸壁改良(海側及び陸側の地盤改良、新設控え鋼管杭打設、既設鋼管矢板補修)を行いました。					
コスト	単位	28年度	29年度	30年度	合計(平成26年度~)	備考(費用の増減理由等)
工事費	千円	926,469	885,195	420,835	2,536,106	平成27年度72,499千円を平成28年度に繰り越して実施しました。 平成28年度46,030千円を平成29年度に繰り越して実施しました。 平成29年度60,835千円を平成30年度に繰り越して実施しました。
人件費	千円	3,673	4,779	4,794	23,570	
合計	千円	930,142	889,974	425,629	2,559,676	

3 CHECK(検証)

指標名	28年度	29年度	30年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗率(%) (進行管理型)	目標	33.6	57.3	84.9	84.9(累計)	事業進捗率は、全体工事費を100とした工事費の割合です。 *平成27年度行政評価において、事業完了年度を延伸し、あわせて目標値を見直しました。	
	実績	32.4	55.7	66.7			
	事業進捗状況(30年度)			順調・(やや遅れ)・遅れ			
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	金額的には目標値を下回るものの、工事は予定通り進んでおり、令和元年度の事業完了に向け順調に進捗しています。						
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明					
必要性 事業着手時に比べ必要性が低下していないか? 事業費規模や対象範囲は利用者ニーズや社会環境にあっているか?	○	大江ふ頭の老朽化対策の必要性は低下しておらず、緊急物資輸送対応の耐震強化岸壁として、事業を進めていく必要があると考えております。					
有効性 事業は、施策達成に貢献するか? 期待どおりの成果が得られているか?	○	耐震強化岸壁として老朽化対策の実施により、施設の長寿命化を図ることは、上位施策である「港の安全性・信頼性の向上」に貢献すると考えております。 本事業は施工中であるため、成果の評価は対象としておりません。					
効率性 最小のコストとなっているか?	○	コストが最小になるよう精査して事業を進めています。					

4 ACTION(取組)

5年間の状況	課題	令和元年度以降の取組	継続
やや遅れ	大江ふ頭耐震強化岸壁は、鉄道車両や航空機部品などを扱っており、岸壁利用に大きな支障が出ないよう事業を実施する必要があります。	大江ふ頭耐震強化岸壁は、令和元年度の完了を目的に利用者調整を図りながら事業進捗を図っていきます。	